

## 第4章 計画の推進について

### 1 役割分担イメージ

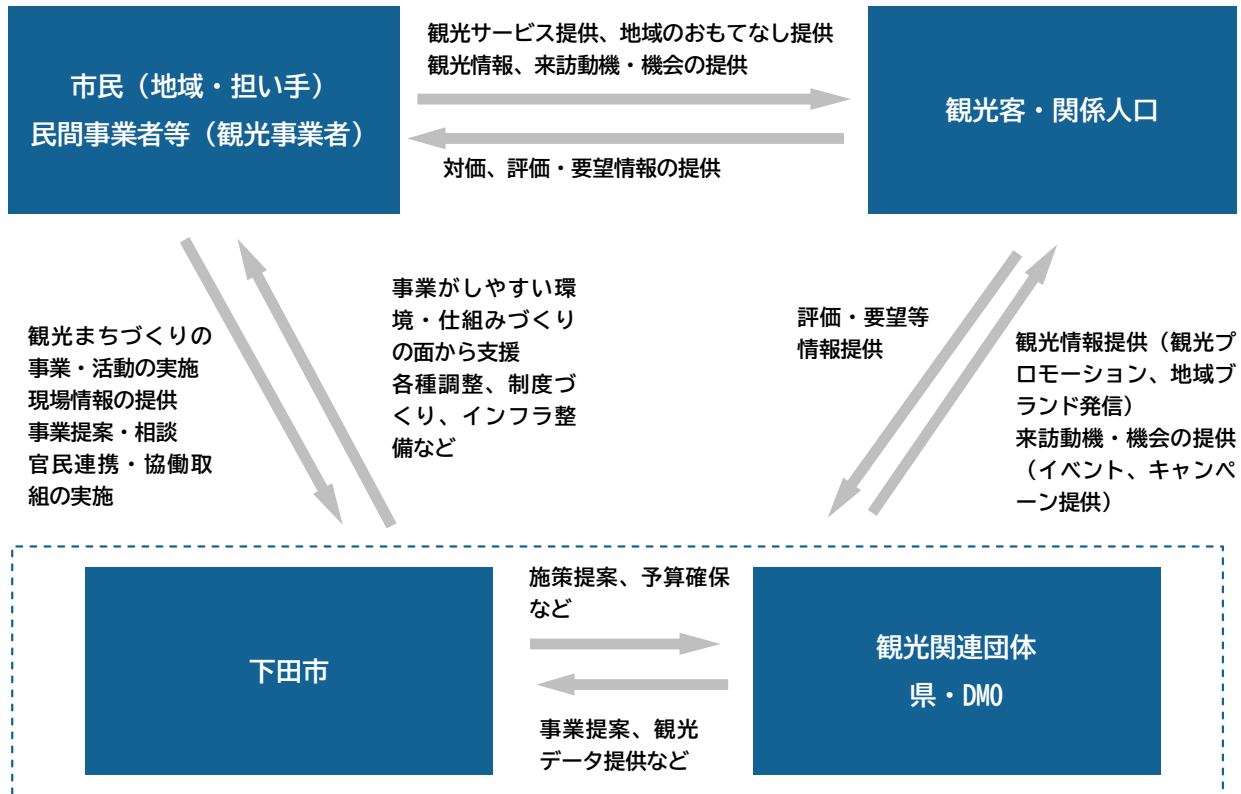
本計画の推進に向け、下田市、市民、民間企業、行政・関連団体で役割を明確化し、相互連携の要点を整理します。役割の重複を避けて効率的な計画の推進を図ります。

#### ■主な事業主体とその役割

主体	役割
下田市	<ul style="list-style-type: none"> <li>政策立案・推進：本計画と上位・関連計画との整合を取りながら推進、ソフト・ハード整備に向けた計画変更、規制緩和の誘導</li> <li>対外調整・資金獲得：国・静岡県・伊豆半島内自治体・美しい伊豆創造センター等との調整、交付金・補助金等の外部資金獲得、国県への要望</li> <li>情報発信・データ統合：観光資源・事業情報の案内、各種データの一元化と情報開示</li> <li>受入基盤の環境整備：事業者・市民・外部協力者・関係人口の取組を支える基盤整備（景観形成、交通、人材確保策等）</li> </ul>
民間事業者等（観光事業者）	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内観光業（宿泊・飲食・アクティビティ等）：観光産業の担い手、新コンテンツ創出による満足度向上、マーケティングデータ収集のタッチポイント</li> <li>市内その他企業：雇用創出、地域資源情報・ノウハウ提供、市内外連携</li> <li>市外観光業（旅行会社・ツアーオペレーター・OTA等）：集客力拡大（高齢層、若年層、インバウンド）、プロモーション協力、口コミ・レビューの収集・活用</li> <li>メディア（新聞・テレビ・Web・インフルエンサー等）：戦略に基づくターゲットに沿った情報発信・プロモーション</li> <li>市外その他企業：投資、スポンサーシップ、海外含む全国での広域連携</li> </ul>
観光関連団体・県・DMO	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光協会：観光情報の集約・提供、イベント支援、ネットワーク形成支援、美しい伊豆創造センターとの連携、宿泊業以外のマーケティングデータ収集</li> <li>旅館協同組合：宿泊事業者間・市内企業とのネットワーク形成支援、マーケティングデータ収集</li> <li>静岡県：県内外の広域連携の調整・促進、施策実行支援と情報共有</li> <li>（DMO）美しい伊豆創造センター：伊豆半島内連携促進、ブランド戦略・プロモーション推進、マーケティング支援、教育研修・スキルアップ支援</li> </ul>
市民	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のホスピタリティと誇りの醸成：受入・おもてなしの担い手、地域ガイド</li> <li>課題発見・提案：地域の声を行政・事業者へ届け、観光まちづくりに寄与</li> <li>地域資源の保全・継承：伝統文化参加／自然環境の保護・維持管理、次世代への教育</li> </ul>
観光客・関係人口	<ul style="list-style-type: none"> <li>初来訪の観光客：第一印象の発掘、新たな観光資源の発掘、若年層中心のSNS・UGC（User Generated Content）発信</li> <li>リピーターの観光客：下田ファンとしての深化（家族ぐるみの宿泊・飲食等）、提供側（コンテンツ造成等）への参画も期待</li> <li>移住・定住検討者：外部視点での地域資源再評価、地域コミュニティとの橋渡し、外部ネットワーク強化、新規サービス創出</li> </ul>

## 2 推進体制関係図

推進におけるそれぞれの主体の観光まちづくりにおける連携関係について整理をします。



上記の連携のもとに目的に応じて、分野横断的なプロジェクトチームを適宜組成し計画推進を図ります。

### 3 進捗管理の仕組み

本計画では、観光まちづくり推進の方向性を整理しました。観光振興のコンセプトのもとに進めるべき事業、特に必要な事項を中心に、事業推進における進捗管理を定期的に行います。進捗管理にあたっては、様々な要因による内外の情勢や環境が変化すると考えられることから、実施内容の検証として、年に1回の観光消費額の算定、市民、観光客へのアンケート調査の実施により、定性的・定量的に進捗を確認します。また、施策推進の当事者による評価として、観光事業者、各種団体、市関係課による事業推進の評価を行います。

なお、「下田市観光まちづくり推進本部会」は毎年開催することとし、観光まちづくりの現状評価および、事業推進中であっても必要に応じて、実施内容の見直しを行いながら、事業推進を図ります。

【PDCA サイクルイメージ～各年でのサイクルにより状況の変化に対応～】



#### ■進捗管理のための会議体

会議体	役割
下田市観光まちづくり推進本部会・幹事会	観光施策に関わる市民、事業者、行政などの機関が連携し、観光振興に必要な取組を一元的に管理する体制を整備することで、本計画の進行管理や施策の評価をはじめ、観光ニーズの変化などに対応します。 総合的な観光振興の推進やそれらに関する関係部局間との調整などを行い、進行管理シートを作成し、指標と施策を関連付ける他、施策の進捗を確認するとともに、課題を整理し、施策や事業の見直しを検討します。
観光まちづくり会議（仮）	市民及び事業者参集による情報共有、事業アイデア検討の場づくりを実施します。 既存事業の改善、新事業創出、人材確保などの検討、現場の課題の共有など具体的な事象についての共有検討の場とします。

## 4 計画の進捗確認のための数値設定

観光振興のコンセプトを実現するための進捗確認項目一つとして、3つの方向性に対応する数値を設定します。5年後（令和12年度）の下田の観光のあるべき姿となる想定値を仮説として設定し、毎年の指標の算出により、施策推進の妥当性判断に活用します。

### ■各項目における進捗の評価指標と評価方法

項目	指標	現状値 (令和6年度)	想定値 (令和12年度)	評価方法
その1 観光産業振興・ 観光誘客の観点 ～経済的効果を高める～	下田市の 観光消費額 (百万円)	91,562	109,465	アンケートによる 消費金額と観光交 流客数により算出
	観光交流客数 (人)	2,028,794	2,500,000	統計調査の 推移把握
	宿泊客数 (人)	913,718	1,000,000	統計調査の 推移把握
	外国人宿泊客数 (人)	36,853	100,000	統計調査の 推移把握
その2 まちづくり・地域 の生活との共存の観点 ～市民の生活をより豊かに する～	市民の観光施策 への満足度	26.5%	50.0%	アンケートによる 把握
その3 施策の推進の観点 ～顧客目線での観光マネジ メントを推進する～	観光客の 観光満足度	87.4%	90.0%	アンケートによる 把握

※観光消費額算出の考え方（第2次計画は、平成30年度静岡県における観光の流動実態と満足度調査より、下田市の観光交流客数で按分して推計しているが、第3次計画においてはアンケート調査より算出）

日帰り単価（1人1旅行）	宿泊単価
交通費：13,006円	交通費：13,006円
土産・買い物：5,789円	宿泊：26,707円
飲食：10,111円	土産・買い物：5,789円
入場・施設利用：3,215円	飲食：10,111円
その他：982円	入場・施設利用：3,215円
合計＝33,103円	その他：982円
	合計＝59,810円

・R6日帰り客数＝観光交流客数－宿泊客数

$$= 2,028,794 - 913,718 = \underline{1,115,076 \text{ 人}}$$

・年間消費額

$$\text{年間消費額} = \text{日帰り単価} \times \text{日帰り客数} + \text{宿泊単価} \times \text{宿泊客数}$$

$$\text{年間消費額（日帰り）} : 33,103 \times 1,115,076 = 36,912,360,828 \text{ 円（約 369 億円）}$$

$$\text{年間消費額（宿泊）} : 59,810 \times 913,718 = 54,649,473,580 \text{ 円（約 547 億円）}$$

$$\text{合計} : \underline{91,561,834,408 \text{ 円（約 916 億円）}}$$